

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

冬の白谷雲水峡

永田小学校 六年 藤條 照平

五年生の冬。ぼくは、山ん学校で白谷雲水峡に登った。今まで何度か行った。正面入口から冬に登るのは初めてだった。正面入口からではなく、裏の山道から登った。みんなでぞろぞろと、村っこう細い山道を登った。冷たい空気がはだに心地よかった。しばらく登っていくと、雪がうすくつもっている場所があった。手ぶくろをはめた手で雪をさわってみる。ざらざらしたつぶの大きい雪だ。遠くからでは分かるなかつたが、近くで見ると、雪の一つぶ一つぶまでよく見えた。そこからはすごかった。山道が真っ白な雪にっつまれていて、登れば登るほど雪が多くなっ、ていた。日の光に照らされて雪が銀色にかがやいている。ぼくは雪をひろって雪玉をつくってみた。けっこう固くて当たったら痛そうだな。と思った。投げるとけっこうとんだ。しかし、もう一時間くるい登りつづけていたので、足

No.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

が重かった。みんなもうかれてきたみたいで
 しばらくすると休けいがあった。五分くらい
 休んだ後、また登り始めた。歩いていくぼく
 の目の前を、はらり、はらりと氷さな老のが
 落ちていった。雪がふり始めた。ぼくの周り
 ぎ白いかたまりがゆっくりと落ちてくる様子
 はまるで夢のようだった。夢中でながめなが
 ら歩いていくといつのまにか、白谷雪氷峽の
 ちゅう車場に着いていた。あたり一面の銀世
 界でほとんど雪しかなかった。今まで先行
 たことがあったが、夏と冬では、まったくち
 がう場所になっっている。それが入口の休け
 い所に行くと昼ご飯を食べた。あたたかいカ
 ップうどんは、冷えきった体によくきいた。
 それでも、寒くて寒くて体が勝手にブルブル
 ふるえた。さらにその後雪合戦があったので
 ぼくはふるえながら雪合戦をした。大人対子
 どもの戦いだった。カいっばい投げで、当た
 ったとてものはげしい戦いだった。しかし、
 ついに子どもチームは大人チームに負けてし

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



